年末の交通事故防止

年の暮は一年中で一番忙しく、車や人の往来がはげしいうえに、忘年会など、酒をのむ機会が多いので、よつぱらい運転や、スピードの出し過ぎによる交通事故が多く起こる時期です。警察では、いろいろの計画をたてて取り締まり、事故の防止に努力しておりますが、皆さまのご協力がなくては十分な効果は望めません。自動車や自転車を運転する人はもちろん、一般の歩行者も交通規則をよく守り、無理のない運転や注意をはらつて通行することが大切です。最近自転車に乗つて通行している人が、事故によつて怪我をされることが多くなつています。自転車で通行するときは、道路の左側を一列に進行し右廻り左廻りする時は、前後左右の安全を確かめてから進行すると、ある程度この事故は防げると思います。進行する自動車の直前に走り出ることや、道路でキヤツチボール、マリツキなどの遊びをすること。自動車の直前直後を横断することなどが交通事故の原因になつておりますから、これらのことに十分注意して下さい。ほとんどの交通事故は、人の心のゆるみから起こつております。心の油断には、いつも交通事故がつきまとつていることを忘れないで、お互いに注意しあつて交通事故を防ぎ、元気で楽しいお正月を迎えましよう。

……年末の防犯……

一、年の瀬が近づくにつれ空巣狙いがふえております。外出時には、必ず留守番を置くか、隣りの人によく頼んでおきましよう。新聞紙が戸にはさまれていたり、郵便物が配達されて、そのまゝ置かれていることは、犯人に留守を告げるようなものです。

二、犯人は集金、行商、訪問者その他通行人を装つてうろつくことがありますから、怪しい者が立ち回つた時は、人相、着衣をよく確かめ警察に届け出て下さい。

三、自転車が一番狙われます。夜間は絶対外に放置しないこと。昼間でもちよつとの間も油断せず施錠するか、自分の目のとどく所に置いて下さい。

四、夜間は戸締まりを厳重にするほか、屋内の状況が見通しできないように工夫すること。夜間電燈のつけはなしは、犯人の忍び込みを便利にするようなものです。

五、年の瀬が近づくと、火災や盗難がふえてきます。お休みになるまでにもう一度火の元と戸締まりを確かめましよう。

許可がいる
小鳥の捕獲と飼養

愛玩用としてみなさんが飼つている小鳥（マヒワ、ウソ、ホホジロ、ヒバリ、ウグイス、メジロなど）には県知事の許可証がいります。これらの小鳥を無許可で飼つていると処罰（六カ月以下の懲役、三万円以下の罰金）されます。（狩猟法）

また これらの小鳥の捕獲についても県知事の許可が必要で これ以外の野生鳥獣については農林大臣の許可がなければ捕獲ができません。（狩猟法）

野山の害虫を駆除してわたしたちの林や農作物を守つている小鳥、またわたしたちの耳を楽しませてくれるこれらの小鳥をこころない人々の乱獲から保護するために、狩猟法にきめられたことをまもりましよう。現在許可証をもつていない方は、直ちにその許可を受けましよう。

詳しいことは県林産課、市役所、林業相談所、警察へお問い合わせください。（産業経済課）

話題の 空気清浄装置とは？

最近、東京の某デパートが全館に空気清浄装置を設備して、お客様に清浄な、高原の朝のような空気をサービスするというニュースが話題になりました。都会の媒煙や、ほこりはもちろん、煙草のけむりやバクテリヤ、ビールス（口過性病原体）などまで取除くことができるといわれるこの装置――正確には静電集塵装置――とは、どんなものでしよう。

空気清浄装置には、フィルターを使用する機械式なものと、静電気を応用する静電集塵式のものがあります。機械式のものでは、空気中の肉眼では見わけられないほど小さなほこりは取りのぞくことが困難です。これに対して静電集塵装置では、きわめて小さなものまで除去することができます。

その原理を簡単に申しますと、セルロイドの万年筆を乾いた布で摩擦しますと、静電気をおびて、軽いほこりなどを吸いつけます。しかしこの場合は、空気中の水分がその静電気を持去りますから、万年筆はすぐ吸着力を失います。静電集塵装置はこの原理を応用したもので、集塵部分に連続的に電気をおこしてそこを通りすぎる空気中のほこりなどを吸いとるものです。

そのしくみと効果は、第一、第二図のとおりです。現在、精密機械や薬品の製造・保管などに使われていますが今後は劇場、百貨店、病院などにきわめて広い用途をもつていますので普及するでしよう。電気冷房装置と併用すると真夏でも文字通り、〃高原の朝の空気〃をふんだんに吸うことができるわけです。

四国では、テレビ局に取付けられているものがあります。（四電ニュースから）

火事を防ごう！

本月に入つて岡豊町八幡で火事があり、損害約七十万円を出した。注意していても火魔はどこかでにらんでいる。さきに厚生省が発表した〃火災白書〃をみても、火事の災害がどんなにおそろしいものであるかがわかる。

この白書によると、昨年中に全国で発生した火災は三万六千余件に達し、これは終戦後最大の発生件数であるという。この火事の損害額は一件六十万円。

炊事の残り火、タバコの火の不始末からがこうした大きい被害を生じる原因になることを忘れてはならない。

しかも、日本で発生した火事原因のトツプは、毎年タバコの吸いがらが占めるといわれる。

とくに、どこでもかまわずに、ポイ、と吸いガラを投げ捨てることは禁物だ。権威ある統計は、このことをはつきり教えている。

南国いりの土佐守護職 (1)

田村の細川桂昌院公
城跡と法華宗細勝寺

松 村 義 正

◆南国土佐中部の大河物部川の名の出拠である物ノ部氏の物部文化と国府文化と開豊文化の三大文化系統を包括するわが南国市は、奈良時代に国司郡司の任命があつて土佐に国府庁（最古の国府址は今の高知市旭中須賀北方地蔵堂を中心とした地点説が最近確認された）が紀貫之の来国の時、江州日枝神社から勧請されたという日吉（ヒエ）の社名に起因する比江丘陵下に設けられ、政治軍事の中心となつて吉野朝の前後に及んだのであつた。

それが室町時代になると国司制度はすたれて名のみとなり実権は田村居形の細川守護代に移つて鎌倉以来の土着の豪族香宗我部氏を初め大中臣氏その他の土豪も皆その支配下に帰するようになつた。

長曽我部氏もまた初代秦能俊（遠祖は秦王始皇帝の裔方月君）の土佐国司として信濃から入国後数世を経て十五代備前守元親、十六代信濃守文兼（二十一代英傑宮内少輔元親五代の祖）の頃まで、足利管領細川右京大夫に昵近していた。

◆吉野朝時代の戦乱中四国には細川氏の勢力が確立され、土佐もまた同氏の分国のようになつていた。

吉野朝の天授六年細川頼之の弟頼元の子頼益が土佐守護代となつて田村居城の年数は室町時代文亀二年に至る四代百二十二年の間であつて天授六年は実に春秋五百八十余年前の事である。

今の細勝寺に伝わる寺宝鰐口の在銘「永享四年十二月丹波国氷上郡柏原荘、極楽寺鐘也、平井村願主助次郎敬白」とある永享四年（五百二十余年前）の頃は、京都室町幕府の統制力漸く紊乱を来しつつある永享の乱前で、実に足利管領斯波義淳職を退き細川持之の代つて管領となつた年であり、持之は後に起つた応仁の乱に東軍大将細川勝元の父であるから、この時代以前に溯つて守護代居館田村城について考えてみたい。

◆凡そ土佐戦国時代以前の築城的見地からいうと、大体城郭の通有性として平城、山城、平山城の三つに区別されている。

平城は源平時代から吉野朝初期にわたつて盛んに利用されているから田村城も今の字名に残る東門、西門、土居、二ノ堀、的場、西見当などから察すると平城で所謂土居屋形と見るべきものであろう。

当時土佐国内の治安維持と家人統制とをもつて任務としていた細川守護職居城の宏大な天授の昔の城跡を偲ばしめるものがある。

細川氏は清和源氏で足利義季が三河国細川郷に居つて細川次郎と名乗つたので子孫これを姓とした。応永五年足利将軍家が管領を置いた時、畠山、斯波、細川の三氏を三管領といわれ、とくに細川はその門閥の盛んなること幕下に並ぶものがなかつた。

◆管領細川頼之は古今の名将といわれ、政治軍略の才に長けまた有名な詩歌人で読書家でもあつた。

時の将軍義満を補佐してよく足利氏の柱石を固めたのはこの人であつた。然るに任期中突如管領職を解かれ南海四国の守護職に転補せられたそのイキサツはざつとこうであつた。足利将軍家二代義詮の遺言によつて当時幼少の義満補佐の大役を引きうけていた頼之は、洵に謹直な人柄であつたのに、義満は生来我儘が強かつたので長ずるに随い、かれの厳格な臨将をうけることをうるさがつて、何か事にかこつけかれに難癖をつけて遂に管領の重職を罷めさせ四国守護に転補した。ために頼之も義満のこの仕打ちに心中立腹したであろうが、かれはこの時有名な〃四国南海行〃の「人生五十功無きを愧づ」の七言詩を賦して断然京都を云つて父頼春以来の領地讃岐に帰つた。

◆そこでかれは父頼春の遺志をついで四国守護となつて南海の経略を行うこと凡そ十二年に及んだ。

この間に嫡子基之が早世したので弟頼元を養子として細川宗家を継いでもらつた。

吉野朝の天授六年に頼元の子頼益を守護代として土佐に下し田村荘に居城せしめ自らは四国総守護として讃岐に居つたが、南北朝合一した後小松天皇の元中九年に六十四才で歿した。（つづく）

（筆者は元大篠村教育委員・明見在）

つるの実

成合　金田恵美子

むらさきの名も知らぬ豆のさや
草群の中の山ふもとに
ヒツソリと生きづいていた
つるの実、日射に映えて
深いむらさきのつややかさに
吸寄せられた私の魂に何をささやくのか
むらさきの実よ
お前のささやきを受け止めても
こしかたの噂は知られない
美くしい思惑の色彩を、
そのなよやかな体形を
誰に誇示するでもなく
揺れて居る豆のさや
そのさやの、
ほのぼのと暖かい内がわ
はちきれ出んとして燃えている生命を
ルビーの様な真赤な種子を
私は見た
つつましく健実に生命を全うするものの
ほこらかな安らぎを
山のふもとの草群の中の名も知らない
むらさきの　つるの実

〃一老人〃への返事

国民健康保険というところの国保診療は、三十六年から実施されますから、すぐ間に合わぬわけです。

それで、もしあなたが生活に苦しくて医療費にこと欠いでおられるようでしたら市役所の福祉事務所へおいでになつて相談されると、親切に話に乗つてくれ、必要とみとめられたら援助を受けることができます。お暮しの程度がわかりませんから、これ以上説明しかねます。なお国保も支払うお金の全額ではなく、半分は自分の負担です。（係）

歳末たすけあい運動

「みんなで楽しいお正月を」のモツトーで今年も十二月一日から二十日までNHK歳末たすけ合い運動が行われる。

昨年の運動で、五千五百余万円の義捐金と七万五千余点の義捐品が寄せられ、前年より一四〇〇万円も上廻る成績をあげた。

これらの金や品物などは貧しい人々、身よりのない老人、体の不自由な人たち、母子家庭、不遇な子供たちへの贈りものとなつたほか開拓地の人、原爆患者、引揚者、出所者にも分けられている。

今年もより一層のご協力を願いたい。

暮の財布を引きしめよう

師走の月はすべてが駆け足である。やれ買物だ、忘年会だと財布のひもをゆるめていたら、お金も駆け足で出ていつてしまう。習慣や虚栄によるムダな行事をなるだけ簡素化にし、年末年始の無計画な出費をなくし来年の生活をゆとりのあるものにしたいものである。

またこの時に家計簿を通して、この一年間の生活をふり返ると共に、家族全員でもう一度生活内容を検討しムダ使いがないかを確め、来るべき年のよりよい生活設計をうちたてよう。

消防のいろいろ

消防には破壊消防と近代消防との二つがある。前のは除去消火といわれ、類焼を食い止めるために建物を破壊したりする。後のは冷却消防でポンプが使われ、化学薬品による消火も行なわれる。

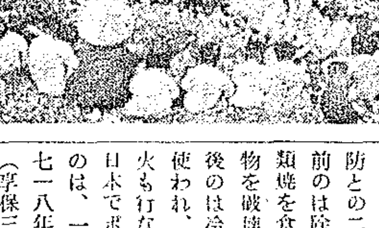
日本でポンプがつくられたのは、一七一八年（享保三年）ごろといわれる。

また消防団?ができたのは一六四三年（寛永二十年）ごろといわれ、幕府が大名の一部に命じて組織させ江戸の消火にあたらせた。その後は幕府に直属する町火消しが生れ、いろは四十八組など芝居や浪花節に取りあげられる〃火消し気質〃も生れるようになつた。

終戦後は法により、市町村があづかつている。

…………

歴史に残る大火の主なものは、江戸城炎上の明暦三年の大火で、死亡者は十万人に達したといわれる。



……かぜの子……

子どもは風の子だ。小春日の太陽はぬくぬくしていても、霜枯れせまる川原をすぎる風は冷めたい。しかし子らは、大地に座し、風に吹かれ、すこやかに育つていく。

これは久礼田地区の瓶岩川にみる点景である。

インフルエンザ

危険信号…………

この冬もまた、インフルエンザの流行のきざしがみえる。予防と早期治療に注意を怠らないように。

歯をだいじに

農村では歯をみがかない人が半分もある。全国民の八五パーセントがムシ歯を持つている。我にかえつて自分の歯のことを考えてみましよう。ちよつとした心構えで歯を守り立派にすることができる。

寄稿について

▽この広報にご寄稿の場合は、なるべく原稿紙をお使い下さい。また、原稿紙に書いたように、字の間をあけていただきたいと思います。

▽原稿はお返ししませんから、必要な方は写しをとつておいて下さい。

▽締め切り日は、毎月末です。

▽原稿届け先は「南国市役所内、広報係」

なんでしよう

おわかりの方は、はがきに書いて、来月五日までに次のところへ、お知らせ下さい。正解三人に抽センで賞品を送ります。

南国市役所内・広報編集係